

自分を知る

～生徒の結婚観を育む必要性を探る～

小出特別支援学校川西分校(高等部) 齋木 秀夫

単元のねらい

- 生徒
自分の将来について考える
- 職員
生徒の人生観や職業観を知る

最も関心があったことと生徒の回答

「Q 40歳になった自分は結婚していると思いますか？」



人数(%)

	男	女	計
結婚している	3(27.3)	2(28.6)	5(27.8)
結婚して子供がいる	2(18.2)	5(71.4)	7(38.9)
結婚していない	6(54.5)	0	6(33.3)

生徒が考える将来の幸せな生活

- A男一結婚して、子どもがいて、仕事も趣味も充実している
- B男一大勢の仲間とたくさんの子どもがいる
- C子一イケメンの旦那さんがいて、子どもがよい子に育つ

生徒の成果

友達の人生観や職業観を知ることで、自分の人生設計を見直す機会になった

職員の成果

思っていた以上に「大人になったら結婚している」と考えている生徒がいることが分かった

課題①

「結婚」をテーマにした学習が必要ではないか

卒業生で結婚した人はいない
結婚は無理

- 結婚するとはどういうことか
- 結婚してよいこと、悪いこと
- 結婚するにはどうすればいいのか など

課題②

障害がある人が結婚するのにどんな困難があるのか

親や周囲の理解
経済的な問題

私たち教師は何ができるか